



昼休みの長門分教室は、深川小の児童が遊びに来てとてもにぎやか

特集 特別支援教育

すべての子どもに学ばう楽しさを

障害のある子どもと障害のない子どもが
ともに学ばうインクルーシブ教育を進めて
います。

■特別支援教育とは？

障害のある子どもたちの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行うことを特別支援教育といいます。

■すべての子どもたちのために

特別支援教育は障害の有無やその他の個々の違いを認識しながら、いろいろな人たちが生き生きと活躍できる社会づくりの基礎となるものであり、すべての子どもたちのためにすべての教職員がかかわる教育です。平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、特別支援学校に限らず、すべての学

校において、障害のある子どもたちの支援をさらに充実していくこととなりました。

■共生社会の実現に向けて

長門市では、障害のある子どもとない子どもがともに教育を受けることで、「共生社会」の実現に貢献しようという「インクルーシブ教育」の考え方を推進しており、地域との交流を積極的に行っています。

共生社会とは、誰もが社会に積極的に参加・貢献していくことができ、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型社会です。

一人ひとりの個性を尊重し、すべての子どもが楽しく授業に参加することで、「わかる・できる」ことにつながる支援体制づくりに取り組んでいます。今回の特集では、長門市における特別支援教育の取組について紹介します。

お気軽にご相談ください

5歳児すこやか相談会

小児科医や児童心理士などによる心身の発育・発達についての相談

教育相談

萩総合支援学校や仙崎小学校ことばの教室の先生による相談。随時受付。

療育相談会

5月・7月・11月・1月の第4木曜日に実施

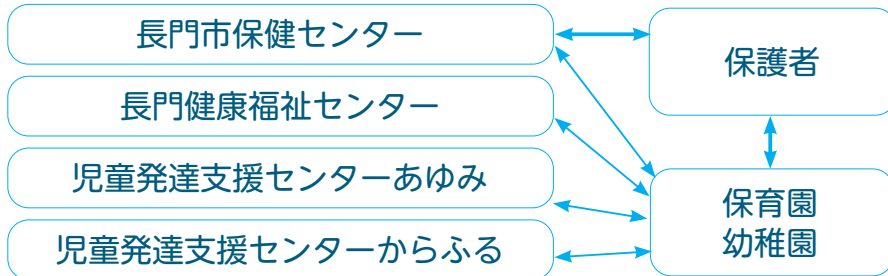
発達クリニック

偶数月の第3木曜日に実施

／ ひとりで抱えこまないで ／

小学校に入学するまでの間はどこに相談したらいいの？

就学時健康診断までの間に子どもの発達について心配なことがあれば、まずは通園している保育園・幼稚園または保健センターにご相談ください。また、教育相談などの相談機会もありますので、お気軽にご利用ください。



／ まずは知ることから ／

どんな就学先があるの？

子どもに対する支援

通常の学級

同学年の集団で学習や生活をします。

子どもも保護者も期待と不安の入り混じった小学校入学。就学先はどのように決まるのでしょうか？またどのような選択肢があるのでしょうか？小学校入学年齢の子どもの進路は4種類あります。

通常の学級 + 通級指導教室

通常の学級に在籍しながら、生活面・学習面での困難さに応じて、決められた時間に通級指導教室で指導を受けます。

児童の特性に合わせ、工夫された教材を用いた指導を行っています。



▲通級指導の時間に通級指導教室へ移動して学習する

通級指導教室が設置されている学校

(令和2年4月現在)

小学校 仙崎小学校、深川小学校、日置小学校、油谷小学校

中学校 仙崎中学校、深川中学校、三隅中学校、日置中学校、菱海中学校

※日置小学校、深川中学校、三隅中学校、および日置中学校は巡回型

特別支援学級

個々の障害の状態に応じて特別な教育課程が編成され、一人ひとりに合った指導が行われます。また、通常の学級で一緒に学習する時間もあります。

1クラスの人数は8人までで、異学年の子どもが同じクラスで学ぶ場合も多々あります。

長門市に設置されている特別支援学級

(令和2年4月現在)

小学校 知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、難聴学級

中学校 知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、肢体不自由学級

特別支援学校

個々の障害に応じて、専門性の高い教育が行われます。本市では深川小学校の校舎内にある萩総合支援学校長門分教室が該当します。



▲一人ひとりの状態に応じた指導が行われている



▲異学年の子どもと一緒に学ぶ場合もある

多い

＼ こんにちは ／

長門分教室は、長門市にひとつだけの特別支援学校です。平成27年に身近な地域で障害に応じた専門的な教育を受けられるよう開設されました。

萩総合支援学校長門分教室です

交流による

共生社会の実現を



▲ 炊飯集会などの学校行事でも交流

長門分教室は、県立の特別支援学校でありながら、市立の小学校の中に教室が設置されているというほかに類を見ない形態を活かし、深川小の児童と盛んに交流しています。分教室の児童は、交流によりコミュニケーション能力を高め、集団生活におけるルールやマナーを理解することを目指しており、異なる環境への適応や基本的な生活習慣の確立も期待されています。

一方、深川小の児童にとっても、良さや違いを認め合い、互いを尊重し、相手の気持ちや立場を考え、適切なコミュニケーションを取ろうとする力を育むことにつながります。



▲ 休み時間になると深川小の児童が分教室に遊びに来てくれます



▲ 音楽の授業で一緒に楽器を演奏 (昨年度)



▲ 深川小だけでなく、分教室の児童の居住地の小学校とも交流 (昨年度)

言葉や文字での
コミュニケーションが
苦手でも大丈夫

「文章を読むことや言葉や文字でのコミュニケーションが苦手」「自分の思いを上手に他人に伝えることができない」そのような子どもたちが、将来自立した生活を送り、社会に主体的に参加できるようにするために、工夫した指導をしています。

ICT機器を導入し、文字だけでなく音声や画像を活用することで、一人ひとりの理解が深まります。また、作業手順を示した表などの活用で、活動の見通しをつけると、落ち着いて行動することにつながります。



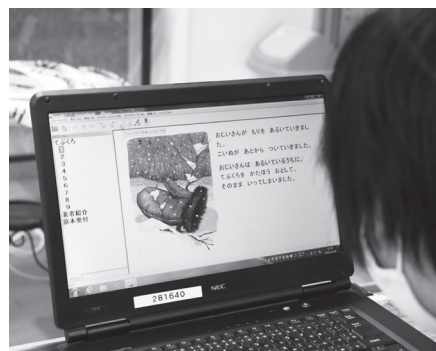
▲ 深川小の児童が修学旅行のおみやげを持ってきてくれました



▲ スケジュールボードを確認し、次の活動に切り替える



▲ 検診の手順を示して練習することで、受診時にも落ち着いた行動に



▲ 文字・画像に合わせて音声再生されるマルチメディアデジータ図書



長門分教室の たのしい1日

明るくおしゃれな校舎と元気いっ
ぱいで優しい深川小児童に囲ま
れ、楽しく過ごしています

8:35 登校

深川小学校の玄関から登校
身の回りの整理整頓

1校時 朝の運動と朝の会

朝のランニング・全員で朝の会

2校時 個別の学習

児童・生徒の実態に合った教材を選んで指導します

3,4校時 集団でのさまざまな学習

分教室には楽しい学習がいっぱいです
深川小学校との授業での交流もあります

給食・昼休み

給食のメニューは深川小学校と同じ
歯磨きが終わった児童から昼休み
深川小の児童と遊んだり、図書室に行ったりします

5,6校時 さまざまな学習

特別支援教育ならではの自立活動が中心です
掃除や帰りの準備も指導します

15:10 下校

迎えの保護者やデイサービスの担当者にその日の
様子などを報告した後、あいさつをして下校
「また、明日」



萩総合支援学校
長門分教室
教頭 西永 裕さん

共生社会に向けた
取組を進め、より良い
長門分教室に

毎年入学してくる深川小の児童は、4月は分教室の車いすの児童生徒をじっと眺めています。しかし、しばらくすると、同じ場所と一緒に活動する仲間として、自然に馴染んでいきます。これも分教室が目指す交流および共同学習の姿のひとつです。

小学校内への特別支援学校の設置は前例のないことであり、まだまだ課題もあります。今回の特集で、一人でも多くの方に分教室について知っていただき、より良い分教室にしていくきっかけとなつたらと思います。

分教室の児童生徒と一緒に過ごした児童たちが大人になった時、長門市が誰に対しても優しい素敵な街になることを楽しみにしています。



▲登校時の保護者と教員との情報交換



▲朝は深川小の玄関から「おはようございます」



▲iPadを使用するなど個に応じた指導が充実



▲待ちに待った給食の時間 今日メニューは何？



▲毎日の掃除のおかげで、いつも床はピカピカです

学校運営協議会委員に聞きました

萩総合支援学校
学校運営協議会委員
川崎 満穂さん

学校運営協議会は年に3回程度開かれています。委員が学校の実情を聞き、学校と保護者、地域の人が知恵を出し合うことで、意見や要望を学校運営に反映させていきます。

長門分教室は、深川小学校内にあることから、さかんに交流が行われており、毎日の学校生活を通して、自然にインクルーシブ教育が実践されていると感じています。

聞いてみよう、保護者の声

地域に密着した指導に感謝

長門分教室はバリアフリーの校舎内にあり、自宅から近く安心です。授業で行っている地元のお店での買い物などの社会体験を通して、地域の人の理解も少しずつ深まっていて、長門市にとっても良いことなのではと感じています。

できれば、分教室に高等部まであると助かりますが、人数が少ないため、先生と緊密なコミュニケーションをとりながら学べることを子どもも喜んでいきます。

交流を通じた インクルーシブ教育の実践